

様式 3

教員資格及び教育内容等の自己評価書様式

【自己評価 1-1】専任教員の配置状況

学部 ・学科等 の名称	専任教員数							非常 勤教 員	専任教員 一人あた りの在籍 学生数	備考	
	教授	准教 授	講師	助教	計	基準 数	うち 理学 療法 士又 は作 業療 法士 数				助手
作業療法 学科	人	人	人	人	8人	6人	8人	人	人	19.3人	

【自己評価 1-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	理学療法士又は作業療法士である専任教員の配置人数が適正であり、かつ関連領域を教授できる医師等の専門家が配置されている。	3
	理学療法士又は作業療法士である専任教員の配置人数が適正である。	2
	理学療法士又は作業療法士である専任教員の人数が適正でない。	1

【自己評価 1-3】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	全ての養成施設指導ガイドラインの教育内容（講義）を専任教員か、専任教員と同等以上の知識を有する教員が担当している。	4
	9割以上の養成施設指導ガイドラインの教育内容（講義）を専任教員か、専任教員と同等以上の知識を有する教員が担当している。	3
	8割以上の養成施設指導ガイドラインの教育内容（講義）を専任教員か、専任教員と同等以上の知識を有する教員が担当している。	2
	上記以外である。	1

【自己評価 1-4】 当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	専任教員（理学療法士又は作業療法士）は、全員が臨床に携わることで臨床能力の向上に努めている。	3
	専任教員（理学療法士又は作業療法士）は、一部が臨床に携わることで臨床能力の向上に努めている。	2
	専任教員（理学療法士又は作業療法士）は、臨床に携わることで臨床能力の向上に努めていない。	1

【自己評価 2-1】 養成施設指導ガイドラインとの連動状況

分野 (基礎・ 専門基礎 ・専門)	指定規則 教育内容	相当授業 科目名	担当 コマ 数	担当教員	
				氏名	職名 (専任・ 兼任)
基礎分野	科学的思考の基 盤人間と生活社 会の理解	IT 活用法	15	藤井 ひろみ	兼任
		研究法Ⅰ	15	水島 眞由美	専任
		研究法Ⅱ	15	水島 眞由美	専任
	人間と生活 社会の理解	心理学	15	江川 和哉	兼任
		倫理学	15	黒川 都史紀	兼任
		教育学	15	鈴木 匡	兼任
		カウンセリング心理学	15	福榮 みか	兼任
		外国語リテラシー	15	鈴木 久美子	兼任
		社会心理学	15	弓田 千春	兼任
		専 門 基 礎 分 野	人体の構造と機 能及び心身の発 達	解剖学Ⅰ	30
解剖学Ⅱ	30			滝口 雅人	兼任
生理学Ⅰ	30			比留間 弘美	兼任
生理学Ⅱ	30			比留間 弘美	兼任
基礎運動学Ⅰ	15			杉山 修	専任
基礎運動学Ⅱ	15			杉山 修	専任
応用運動学	15			杉山 修	専任
運動学実習	15			杉山 修	専任
人間発達学	15			内山 博之	専任
総合学習Ⅰ	15			坂本 剛一	専任

		総合学習Ⅱ	15	坂本 剛一	専任
	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	老年医学	15	佐谷 瑞紀	専任
		臨床心理学	15	斎藤 一政	兼任
		内科学	15	大野 亮	兼任
		整形外科学	15	瀬古 恵美	兼任
		神経内科学	15	橋本 卓雄、大野 亮	兼任
		精神医学	15	内山 彰	兼任
		小児科学	15	西澤 善樹	兼任
		心理検査法	15	江川 和哉	兼任
		臨床リハビリテーション医学	15	瀬古 恵美	兼任
		保健医療福祉とリハビリテーションの理念	リハビリテーション概論	15	瀬古 恵美
	理学療法概論		15	須藤 ゆかり	兼任
	言語療法概論		15	大塚 裕美	兼任
	地域福祉論		15	原島 隆行	兼任
専門分野	基礎作業療法学	作業療法概論	15	水島 眞由美	専任
		作業療法実習	15	小柳 俊介	専任
		基礎作業学Ⅰ	15	水島 眞由美	専任
		e アクティビティ	30	内山 博之	専任
		基礎作業学Ⅱ	30	杉山 修	専任
	作業療法管理学	作業療法管理学	15	坂本 剛一	専任
	作業療法評価学	身体障害領域の評価学概論	15	佐谷 瑞紀	専任
		精神障害領域の評価学概論	15	石井 有希	専任
		身体領域の評価学	30	杉山 修	専任
		身体領域の評価学演習	15	佐谷 瑞紀	専任
		精神領域の評価学	30	石井 有希	専任
		発達領域の評価学	15	内山 博之	専任
	作業治療学	身体領域の治療学Ⅰ	30	小柳 俊介	専任
		身体領域の治療学Ⅱ	15	佐谷 瑞紀	専任
		身体領域の治療学Ⅲ	30	小柳 俊介	専任
		精神領域の治療学Ⅰ	30	坂本 剛一	専任
		精神領域の治療学Ⅱ	15	石井 有希	専任

		精神領域の治療学Ⅲ	30	石井 有希	専任
		発達領域の治療学Ⅰ	15	内山 博之	専任
		発達領域の治療学Ⅱ	15	内山 博之	専任
		老年期の治療学	15	佐谷 瑞紀	専任
		高次脳機能の治療学	15	高山 大輔	兼任
		日常生活活動学Ⅰ	15	佐谷 瑞紀	専任
		日常生活活動学Ⅱ	15	佐谷 瑞紀	専任
		インクルーシブデザイン学	30	水島 眞由美	専任
		作業分析学	15	内山 博之	専任
		身体領域の症例検討	15	長谷 里恵	専任
		精神領域の症例検討	15	石井 有希	専任
		卒業研究	15	水島 眞由美	専任
		作業療法リテラシー	30	長谷 里恵	専任
		総合演習Ⅰ	15	長谷 里恵	専任
		総合演習Ⅱ	15	長谷 里恵	専任
	地域作業療法学	レクリエーション活動学	15	佐谷 瑞紀	専任
		地域リハビリテーション学	15	長谷 里恵	専任
		生活行為向上マネジメント学	30	長谷 里恵	専任
		地域作業療法学	15	内山 博之	専任
		生活支援技法	15	小柳 俊介	専任
		地域見学実習	—	石井 有希	専任
		連携コミュニケーション演習	15	坂本 剛一	専任
	臨床実習	基礎実習	—	長谷 里恵 他作業療法学科全教員	専任
		臨床実習Ⅰ (評価実習)	—	長谷 里恵 他作業療法学科全教員	専任
		臨床実習Ⅱ (評価実習)	—	長谷 里恵 他作業療法学科全教員	専任
		臨床実習Ⅲ (総合臨床実習)	—	長谷 里恵 他作業療法学科全教員	専任
		臨床実習Ⅳ (総合臨床実習)	—	長谷 里恵 他作業療法学科全教員	専任

【自己評価 2-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	養成施設指導ガイドラインに基づき、教育課程を体系的に編成している。	3
	養成施設指導ガイドラインに基づき、教育課程をおおむね体系的に編成している。	2
	養成施設指導ガイドラインに基づいていない、または教育課程を体系的に編成していない。	1

【自己評価 2-3】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	シラバスにすべての授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準・方法を明記している。	4
	シラバスにすべての授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準・方法をおおむね明記している。または、大半の授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準・方法を明記している。	3
	シラバスの記載が十分ではない。	2
	シラバスが作成されていない。	1

【自己評価 3-1】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習を実施している。	4
	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習をおおむね実施している。	3
	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習を十分に実施していない。	2
	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習を実施していない。	1

【自己評価 3-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	講義と関連の実習が十分に連動して実施されている。	4
	講義と関連の実習がおおむね連動して実施されている。	3
	講義と関連の実習が十分に連動して実施されていない。	2
	講義と関連の実習が連動して実施されていない。	1

●基本情報：臨床実習の見学又は実践する範囲とそれに関連する講義科目それぞれの開講時期を記入してください。

臨床実習の見学又は実践する範囲	開講時期	関連講義名	開講時期
基礎実習	2年前後期の 間	生活行為向上マネジメント学	2年前期
		連携コミュニケーション演習	2年前期
臨床実習Ⅰ（評価実習）	3年前後期の 間	総合演習Ⅰ	3年前期
		総合演習Ⅱ	3年後期
臨床実習Ⅱ（評価実習）	3年前後期の 間	身体領域の症例検討	3年後期
		精神領域の症例検討	3年後期
臨床実習Ⅲ（総合臨床実習）	4年前期	卒業研究	4年後期
臨床実習Ⅰ（総合臨床実習）	4年前期		

【自己評価 3-3】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
	養成所指導ガイドラインで定める要件を満たす主たる実習施設で十分な臨床実習が実施されている。	3
	養成所指導ガイドラインで定める要件を満たす主たる実習施設で一部の臨床実習が実施されている。	2
○	養成所指導ガイドラインで定める要件を満たす主たる実習施設を置いていない。	1

【自己評価 3-4】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	適正な臨床実習指導者の下で実習が実施されている。	4
	適正な教員の監督指導の下で実習がおおむね実施されている。	3
	適正な教員の監督指導の下で実習が十分に実施されていない。	2
	適正な教員の監督指導の下で実習が実施されていない。	1

【自己評価 3-5】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	臨床実習におけるハラスメント防止のための体制があり、対応が十分である。	3
	臨床実習におけるハラスメント防止のための体制はあるが、対応が十分でない。	2
	臨床実習におけるハラスメント防止のための体制がなく、対応も不十分である。	1

【自己評価 4-1】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	自己点検・評価の体制があり、改善に向けて機能している。	3
	自己点検・評価の体制はあるが、改善に向けて機能していない。	2
	自己点検・評価の体制がない。	1

●基本情報：自己点検・評価体制記入してください。

自己点検・評価組織名	学校関係者評価委員会自己評価
委員名（委員長）	橋本 卓雄（委員長）、松田 寿子、笠井 佑香里、戸羽 香央里、重田 直哉、渡邊 洋治、長谷 達也、瀬古 恵美、田中 千恵、長谷（机） 里恵、杉山 修、武田 正一、石井 有希、内山 博之
組織の開催頻度	1年に2回
組織の取り組み内容	・教育理念・目標
	・学校運営
	・教育活動；① シラバス・カリキュラム② 教育力向上③ 臨床実習④ 情報公開
	・学生支援；① 社会性② 行事③ 個別指導④ 健康管理・防犯⑤ 就職支援⑥ 災害対策⑦ 経済援助・活動援助
	・教育環境；① 教室② 図書③ 設備・備品
	・学生の受入れ募集
	・法令等の遵守
	・社会貢献・地域貢献
自己点検・評価結果の公表	H Pで公表（URL：http://ycr.iwasaki.ac.jp）

【自己評価 4-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	シラバス記載内容を改善する仕組みがあり、シラバスの記載内容の改善が行われている。	3
	シラバス記載内容を改善する仕組みはあるが、シラバスの記載内容の改善は十分ではない。	2
	シラバス記載内容を改善する仕組みがない。	1

●基本情報：シラバス記載内容を改善する仕組みについて記入してください。

該当する 仕組み	名称	教育課程編成委員会
	委員構成等	鈴川 仁人、錠内 広之、野々垣 睦美、齊川 大介、橋本 卓雄、渡邊 洋治、長谷 達也、瀬古 恵美、田中 千恵、長谷 (机) 里恵、森岡 由美、杉山 修
	改善の仕組みの実際	<p>実践的かつ専門的な職業教育を実施するために、教育課程編成を検討する機関として教育課程編成委員会を設置する。委員は、次に掲げることに関し、学校長の求めに応じ意見を述べるものとする。</p> <p>一 本校の教育目標、教育方針、教育計画に関すること。 二 本校の教育課程の編成に関すること。 三 本校の教育課程の内容に関すること。</p> <p>本委員会で検討された内容や得られた意見をもとに、基礎学力の底上げや学習の習慣化、課題解決能力などの基本的資質や教養の向上につなげるようシラバス（科目内容）に反映させる。</p> <p>（検討事項）</p> <p>2025年度の2回の会議を通して、岩崎学園共通の教育メソッドの策定ならびに経験学習サイクル、生成AI活用ガイドラインについて議論が行われた。</p> <p>1. 教育メソッドの策定と経験学習サイクルに関する検討事項</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・モチベーション向上を目的にゲーミフィケーション利用や学習の習慣化を目的に小テストの実施を提案。</li> <li>・関連科目担当教員間の連携や地域連携を検討。</li> </ul> <p>2. 生成AI活用ガイドラインに関する検討事項</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本校で作成した生成AI活用ガイドラインを学生に周知し、AIの適切な使用方法について説明し、意見交換。</li> <li>・臨床現場でのAI活用方法を確認し、学内での学生指導との整合性について検討。</li> </ul> <p>これらの検討事項は、今後変化する学生指導に向けた新たな取り組みを含み、より実践的な能力と医療人としての資質をもって社会に出られるよう、カリキュラムの工夫・改定や教育体制の改善に役立てていく予定である。</p>

【自己評価 4-3】自己点検・評価及び第三者評価の結果を改善に繋げるための取り組みを記入してください。

- ・自己点検より「養成所指導ガイドラインで定める要件を満たす主たる実習施設を置いていない」という課題が挙げられているため、今後、主たる実習施設の獲得に向けた取り組みを行う。
- ・第三者評価では一般社団法人リハビリテーション教育評価機構の評価を2022/3/1に受審し、「S」評価結果であった。更新のため、6月に受審申請予定であり、現在準備を進めている。